

2019年3月17日

福音書からのメッセージ

めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。（ルカによる福音書 13 章 34 節）

今日の福音書には、「エルサレム、エルサレム」と嘆くイエス様の姿が描かれています。エルサレムといいますと、当時の宗教や政治の中心地です。為政者と呼ばれる政治をつかさどる人たちや、宗教指導者といった人たちのことを指して、イエス様はこのように言われているのは確かです。

わたしたちの多くは、政治をつかさどっているわけでも、宗教指導者として権力を握っているわけでもありません。だからこの話はわたしたちには関係ない。そのように言い切ってしまうと、今日の話はそこで終わってしまいます。

今日の聖書の中に、このような言葉がありました。

めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。

この言葉を聞きながら、わたしはある歌の歌詞を思い浮かべていました。それは聖歌 522 番「神ともにいまして」です。わたしが園長をしている桃山幼稚園ではこの火曜日が卒園式ですが、そのときに歌う曲です。その 2 節の歌詞に、こうあります。

荒れ野をゆくときも 嵐、吹くときも
みつばさのもとに 守りはぐくみませ

また会う日まで また会う日まで 神
の守り なが身を離れざれ

先々週、この歌を保護者の方々と分かち合いました。幼稚園に通う毎日、子どもたちの手を引き、季節の草花に目をやり、小鳥の鳴き声に耳を傾ける。大変なこともあったかもしれないけれども、お母さんの見



守りの中で子どもたちはすくすくと成長していきました。しかし小学校、中学校と年齢を重ねていくにつれ、子どもたちは独り立ちしていきます。どんなに親御さんがいつまでも子どもを自分のそばに置こうとしても、子どもたちは巣立っていくのです。でも安心してください。わたしたちの手を離れてしまったとしても、いつも見守り、支えてくださる方がおられるのです。それが神さまです。神さまにお委ねしましょう。そのような話を保護者の集いの中で話しました。

イエス様は今日の箇所でも、何度呼び集めても招きに応じようとしないう人々のことを嘆かれます。しかしイエス様は、それでも自分の行く道を歩まれます。その道とは、十字架へと向かう道です。何度拒まれようとも、裏切られようとも、見捨てられようとも、わたしたちを愛し、招いてくださるイエス様。十字架の死と復活によって、正しい者となることのできないわたしたちを、それでも神さまのふところへと導いてくださるイエス様。

そのイエス様の姿を覚え、神さまの愛に抱かれることができればと思います。

そのイエス様の姿を覚え、神さまの愛に抱かれることができればと思います。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>